

# 昭和38年度富士山夏季講習会報告

## 春名利雄

昭和38年8月8日から11日まで4日間、静岡県御殿場市永原富士竹類植物園で開かれた講習会は、県外での研究会であることや場所が良いことなどの理由で参加希望者が多くあったが、宿泊設備の都合で定員厳守であったために受付順に50人で、切ったことは、参加できなかった人々にはまことにお気の毒であった。

富士山の植物相については各層が非常にはっきりしており、日本の代表的な山岳としてご存知の通りです。また、富士竹類植物園は会員室井紳氏が30年余りの歳月と巨額の金を投じ、日本各地から種類を集め1万余坪に竹と笹ばかりを集めた世界唯一の植物園です。この恵まれた両場所を教室として講習会を開くことになったことは本会夏季講習会場の多角的な一面として適切であったという感じです。

### 第1日(8月8日)の記録

午後1時開講式を竹類植物園の桜樹の下で開いた。紅谷進二会長のあいさつがあり、室井紳先生の植物園についての説明があった。

引続いて園内見学「富士竹類植物園見学の葉」「富士竹類植物園を見る」の小冊子を配布され、これを手引に園内をまわった。数年前に植物園であったところから、この新しい所へ移転されてまがないことと、一部移転の終わっていないものもあるそうであるが、整然と並んでいる竹を次々みて感じることは、竹は木の仲間か草の仲間かということである。室井先生は稈が木質で、枝先きが毎年少しずつ伸長するので木の仲間であるといっています。

植物園では異例の採集許可で、日本中の竹や笹を一挙に採集して胴乱に入れた先生方が大変多かった。私も36種の標本を完成したが、この種の分類・研究のきっかけは仲々つきにくいだけに有意義な見学であった。

この地は海拔700~800mであろうか、はげしい夏の暑さもしばらく忘れさせてくれる。富士山が見えなかったのは残念であった。

このあとすぐ近くの風穴を見学。夕食後は懇談会を開きなごやかな一時をすごした。会場提供やその他いろいろと会の為にして頂いた園主前島麗祈先生に深く感謝し、出来れば定員に入れなかった希望の先生方に、次年度にこの会場をあてがって頂けることを切に願う。

次第です。

## 参加者名簿 (受付順)

紅谷進二	洪谷久雄	室井紳
岡村はた	近藤昭一郎	春名利雄
藤木義昭	真鍋幸弘	古川博二
井上茂男	岩谷成彦	若山治男
向山俊作	是枝哲士	赤穂重雄
田中英信	鳥田都	鍋嶋一
長門和朗	石津隆平	樋口繁一
柳田育宣	嵯峨忠一	山垣内勝美
村上義徳	内波秀一	高田俊
服部曉知	柴田信子	田中三恵
船橋稔子	坂東道子	松本公一
谷口博	井上昌	杉山経明
梶田耕造	砂川秀雄	室井のぶえ
金田平	富田忠	井上弘治
小林信昭	加藤茂	木村正司

### 第2日(8月9日)富士山麓採集記

田中英信

台風の影響で空はどんよりとしてうっとうしい天気であった。7時30分富士山麓を目指して50名の者が宿舎を出発した。宮上(須走入口)はほぼ海拔800mぐらいのところである。8時頃ここでバスを乗りかえ狩休に向かった。女性の柔肌を思わせるようななめらかな裾野—その肌の色は火山灰、溶岩のため黒褐色になっている—をバスにゆられて、登っていくとまわりにアカマツ林がぼつぼつ見られる。アカマツ以外にはオオカメノキ、ノリウツギ、ハギ類、ヤマウルシ、ヤマブドウ、アレチマツヨイ、イタドリ、フジアザミ、ヤグルマソウ、ミツバヒヨドリ、ホソエノアザミなどの低木、草本植物がよく茂っている。しばらくいくとアカマツもなくなりツガになる。15分ほどすると草原もなくなり、やがて高木帯というか、うっそうとした林の中に入った。車窓からちらっと見たものをあげると、ウラジロモミ、カマツカ、ヤマハンノキ、ミズナラ、ズミ、ウラジロノキ、マメザクラ、イボタヒョウタンボク、オオカメノキ、ハクサンオミナエツ、ダケブキ、メイゲツソウ、オシダなどが目についた。宮上を出て30分もすると、狩休(海拔1,500mぐらい)に着いた。このあたりになるとカラマツ、コメ

ツガが日だってくる。渡辺先生を講師に迎えて、ここから古御嶽神社(海拔2,000m)までの採集が始まった。しかし、途中で大雨に会って一時狩休まで引きかえした。雨がおさまって古御嶽神社へ向かうグループと馬返へ下るグループにはほぼ半々ぐらいに別かれた。林に入ってみると人に荒らされていないので、高木から着生植物にいたるすべての階層にわたって自由にのびのびと繁茂していた。古御嶽神社から高度100mほどあがっていった。そうすると高木がなく草本植物とカラマツ、溶岩が目だった。カラマツの枝が一方にかたよっていたのが印象的であった。運よく裾野の眺望が開け満足した。皆十二分に採集をし新五合目からバスでのごとごゆられながら無事下山した。この中で筆者の目についたもの、採集したものを書きあげてみる。

ハクサンオミナエシ、ウラジロノキ、カニコウモリ、コウモリソウ、シナノキ、シロバナヘビイチゴ、フジテンニンソウ、オオバマユミ、イワアカバナ、ハナイカリソウ、フジアカショウマ、ミヤマセンキュウ、ミヤマシウド、シオジ、ノリウツギ、ヤマトリカブト、シラベ、オオイタヤマメイツ、イタヤカエデ、ヤマハンノキ、フジノガリヤス、カリヤスモドキ、フジザクラ、マイズルソウ、イボタヒョウタンボク、ツバメオモト、オオカメノキ、クルマバツクパネソウ、サラサドウダン、ミヤマイボタ、フジオトギリ、ザリコミ、クマイチゴ、イワセントウソウ、ヤハズハンノキ、タチコゴメグサ、メイゲツソウ、ダケカンバ、コフタバラン、シオガマギク、ナナカマド、タカネイバラ、ヤハズヒゴタイ、キオン、コイチャクソウ、ジンヨウイチャクソウ、タケシマラン、ハクサンジャクナゲ、カモメラン、キソチドリ、ギンリ

ョウソウ、ツマトリソウ、イワオウギ、コケモモ、ムラサキモメンヅル、オンタデ、カラマツ、フジハタザオ、ミネヤナギ以上。

## 富士山での蝶採集

### 是 枝 哲 士

富士山での採集は初めてで、どのような種類に会えるか、楽しみにして参加したのですが、天候に恵まれず、僅か4匹しか採集できず残念でした。しかし、そのうちのキベリタテハとウラギンヒョウモンの2匹は、私の持っている標本の仲間にニューフェースとして、加えることができたので、私にとっては意義ある採集会でした。

宿舎付近では、アゲハ、キアゲハ、ジャコウアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、ヒカゲチョウ、ジャノメチョウなどの姿を見ましたが、この辺りは数、種類とも少なくないようでした。

9日、植物採集者の方々とともに新五合めまで登りましたが、台風9号による余波のため、俄雨で天気悪く、スジグロチョウ、ヤマキチョウ、ウラギンヒョウモンなどが数匹飛来し、スジグロチョウとウラギンヒョウモン各1匹を採集。

10日、悪天候のため採集できず。

12日、富士登山しての帰り、新五合め付近の山道で、キベリタテハとアサギマダラを採集。新五合めより砂走口までの登山バスの中から、クロアゲハ、アゲハ、カラスアゲハ、ルリタテハ、アカタテハ、アサギマダラ、ヤマキチョウなどの姿を度々見ることができたので、採集日が晴天だったら、かなりいろいろのものが採集できたのではないかと思います。